

東谷まちづくり計画 素案に係る意見募集手続きの結果

・東谷まちづくり計画素案に係るパブリックコメント(令和6年2月15日～3月13日)で提出のあった意見及び検討結果まとめ(提出件数 6件 項目 31項目)

番号	意見の分類 (ページ、項目等)	意見の内容	検討結果
1	全体	全体について記述は、「です」「ます」とするほうが良いと思います。	確認の上、そのようにします。
2	全体	西暦併記は、令和6(2024)年度でなく令和6年度(2024年度)のほうが見やすいのでは。また、文中はどちらか一方の方が見やすいとおもいます。	市は、どちらでもよいとの教示でしたが、市の個別計画では、令和6(2024)年度との表現がありましたので、この表記としました。ただ、文中での多用は煩雑のため、見直いたします。
3	全体	「こども」については、「子ども」「子供」と表現が異なるが、確認下さい。	いずれの表記も間違いではありませんが、この計画での表記は市の総合計画の表記に準じて、固有名詞を除いて「子ども」とします。
4	1 ページ 第1章 の1 計画期間	地域別構想等の計画期間が前は10年で、今回は8年の理由。また市にあわせたならその理由。	構想、計画とも、今回の期間は8カ年としています。これは、市の総合計画の期間と合わせたもので、理由は私たちの東谷まちづくり計画は市の計画との連携、補完、整合を図るべきものと考えました。
5	1ページ 第1章 2(1) 新名神開通 日	新名神の開通日を記載すべき	新名神神戸JCTまでの開通は平成30年3月ですが、この項は地域の現況を記述するものであるため、開通日に関する記述は必要ないと考えました
6	1ページ 第1章 2(1) 多くの農地	生産緑地の解除の影響がある	指摘のように、一定程度生産緑地が解除された集落はありますが、東谷全体で見ると、これまでの表現を変えなければならないほどの農地の減少には当たらないので、「多くの農地が存在しています」の表記としました。
7	2 ページ 地域の 魅力	新名神開通による道路アクセス	追加いたします

番号	意見の分類 (ページ、項目等)	意見の内容	検討結果
8	2ページ 「めざす地域像」	早々、変わるものではないですが全体構成はすこし見直しては。新型コロナの流行、異常気象による大自然災害、大地震など。	めざす地域像は、東谷まちづくり計画全体の表看板にあたる部分ですので、表現は幾分抽象的にならざるを得ませんが、前文の部分は、前項の地域の現況や魅力と課題を踏まえて、今後住民と協働して東谷のまちづくりを進めていきますと言う、決意表明でもありますので、指摘内容の意図も踏まえながら表現内容を修正いたします (修正文) (3) めざす地域像 東谷は、能勢電鉄、阪急により、大阪へのアクセスは良く、新名神開通により、広域交通のアクセスも便利です。一方、地域には、日本一の里山と称される黒川と、日本のダム湖百選にも選ばれている知明湖、さらに、大路地川、初谷川の清流など、美しい自然環境が広がっています。 また、米や野菜、栗などの農産物にも恵まれ、歴史ある寺や神社のほか、城跡や小学校跡など文化的な遺産が多く残っています。 今後は、このような地域の特性や、魅力を生かして「東谷ブランド」を確立し、皆んなが一つにつながり、安全、快適、賑わいいっぱいの町として、内外に地域の良さを発信して、ずっと住みたい町、行ってみたい町になるように、「めざす地域像」として、地域住民と協働のまちづくりを進めます。
9	2ページ 「めざす地域像」 キャッチフレーズ	キャッチフレーズは改めて公募しては(副賞付き)	この度の東谷まちづくり計画は、5月の通常総会で議決の上、直ちに市に提出することが求められており、このような非常にタイトなスケジュールであることから、公募は考えませんでした。計画策定にあたり、2回のワークショップ開催と、素案のパブリックコメントを行ったことにより、地域住民の意見表明や意見募集等、参画の場を可能な限り確保した計画となったと考えております。
10	2ページ キャッチフレーズ	「町」? 「まち」か、意味合いは?	キャッチフレーズで、・・・すみよい町並み・・・としていますが、ひらがなでは「まちなみ」ですが、このまちなみには、町並みと街並みの2通りの書き方がありますが、街並みは町並みの異表記として用いられる語です。しかし、意味はすこし違うようで、町並みは、ある範囲の家の配置風景に使うようで、街並みはある通りを中心とした両側にある家並みの風景に使うようで、簡単に言いますと、町並みは面的な風景、街並みは線的な風景の範囲を表すようですので、キャッチフレーズでは、町並みを使用しました。また、ひらがな書き「まちなみ」もありますが、ここでの意味を考えるとやはり、漢字の町並みとすべきと考えました。

番号	意見の分類 (ページ、項目等)	意見の内容	検討結果
11	5ページ～8ページ	事業は、継続と新規ですが、PDCAサイクルを意識して、「継続見直し」もありかなと思う。	従来から、コミュニティのすべての継続、新規事業について、毎年度、独自のPDCAとも言える、3カ年ローリング計画の、ひがしたに絆プランで事業のチェック(継続、拡大、見直し、中断、廃止等)を行っており、6年度以降も引き続き実施し、常に最善最適の事業化を図ってまいります。
12	5ページ～8ページ	実施事業であったり、調査、検討、研究であったり、サイズが様々ですので、整理集約しては。	新規事業については、ご意見のように、「実施します」から、「検討します」、「調査、研究します」等、色んな表現を使っていますが、これは、それぞれの新規事業の内容や実現困難度等に違いがあり、これを適格に表すためでもありますので、集約等はむずかしいと考えます。また、例示の自治会加入促進事業については、この事業名ですでに定着しておりますので、今のところ、変更は考えておりません。
13	全体	概要版はされますか、本編だけでは説明が難しいとおもいます。	本編の全体が8ページですので、概要版は考えておりませんが、本編の後ろに「その他」の項を起こし、東谷まちづくり計画の全体構成模式図を添付する予定です。
14	全体	市計画では、指標を設定しています。本計画にも導入されたい	市に準じた指標の設定は現在のところ考えておりません。今後絆プラン策定時に導入の適否について検討いたします。
15	全体	住民アンケートの実施	住民アンケートの実施につきましては、大変、重要なことでもありますので、今後、まちづくり全般や個別事業等について、必要な場合、実施してまいります。
16	黒川地区 子どもがい ない、人口減、耕作放 棄	黒川地区は子どもがいなくなり、人口も減、後継者無、耕作放棄が増えた。どうしたらいいでしょうか。	黒川の過疎化の状況、高齢化の進行、農地の耕作放棄荒地化等、難しい状況を述べていただきました、このような現状を、東谷の南部住民は、よく知らねばならないと思います。その上で、可能な取り組みを、南北が協調して進めていくべきです。 そうは言いますが、すぐに解決できる即効策はありません。幸い、黒川里山センターが整備されます、たとえば、これを活用して、南北みんなが力を合わせて、交流を活発にするなど、息の長い取り組みが必要です。
17	市道が狭い	市道が狭くて、救急車も通れない、道路の拡張が急務です。	道路が狭くて、危ないことは、東谷全体の問題と考え、新規事業の内でも、大きなテーマと位置づけております。

番号	意見の分類 (ページ、項目等)	意見の内容	検討結果
18	黒川里山センター	黒川里山センターで楽しいイベントに参加したり、東谷の皆さんと交流したいです。	新しくできる黒川里山センターを活用して交流を推進してまいります。
19	子どもの食の安心、安全について	<p>食の安心安全は、誰もが望んでいるが、現実には、農業や化学肥料が多用され、大人も子どもも知らない内に、口に行っている。特にネオニコチノイド神経毒系は、2世代後になって影響が現れると言われており、今、目に見えて影響がないから安全と錯覚し、危機感を持たない人たちも少なくありません。大きな視点でこれからの子どもたち健康をまもるため市やまちを上げて食の安心安全のため大きく舵取りをしていく必要があると思います。黒川には、農地が多くありますが、まだまだ慣行農法で作られた農産物が多く出回っています、しかし、これは、生産者の意識の問題ではなく、作る側からすれば労力、利益率から見れば当然の結果とも言えます。だからこそ市やまち上げての舵取りが重要と思います。無農薬、無化学肥料の農産物が消費者に届くシステムができれば、慣行農法からすこしづつ移行していくと思います。</p> <p>市やまちが上げて舵取りして、月1日からでも学校給食に無農薬、無科学肥料のものを使うことを提案したい。そして、黒川が将来、有機の里、本当の意味での自然をまもる里山として評価される地域となることを期待したい。</p>	<p>食の安心、安全についての知見や、子ども達に対する、貴重な提案をいただきありがとうございます。</p> <p>ご指摘のように、現状の農産物は、減農薬、減肥料化の方向ではあると思いますが「無農薬、無化学肥料」に向けての方向ではありません。</p> <p>これは、一面では、黒川を含め日本全国での農業者の高齢化、農村の過疎化、耕作放棄地の増加等、農業の困難な状況の顕在化と相関することかも知れません。</p> <p>提案の学校給食での無農薬、無化学肥料の農産物使用については、現状では行なわれておりません。現在、学校では、地産地消を進める観点から、月1回程度、川西産のお米や野菜を使用されているようですが、無農薬、無化学肥料については、そもそも、手に入りにくいことも含め、使用に至っておりません。</p> <p>しかしながら、今回提案いただきました。趣旨、内容については、今後に向けて参考とさせていただきよう、関係団体等周知いたします。</p>
20	人が豊かに育つ東谷	<p>子育て環境の整備</p> <p>保護者が安心して働きながら子育てができる公立幼稚園の存続(運営制度の見直しと預かり時間を午後5時まで延長と給食制度の適用)</p>	東谷幼稚園の休廃園の動きの中で、現状の東谷における子どもの数に比べ、幼稚園機能の受け入れ定員は全く不十分であり、さらに、広大な地域の東谷で、園児は、はるか遠くの園まで通園バスで通わねばならないという事態が続くこととなります。このような東谷の地域的特異性を考えると、3年保育の幼稚園あるいは認定こども園の配置が必要と考えますので、今後とも、取り組みを進めてまいります。

番号	意見の分類 (ページ、項目等)	意見の内容	検討結果
21	人が豊かに育つ東谷	コミュニティスクール 学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって学校づくりをコミュニティ組織と自治会組織が情報を共有して、地域の学校として支援する仕組みづくりを検討する	継続事業のコミュニティスクール支援事業の中で、取り組みを検討いたします。
22	賑わいが生まれる東谷	鳥獣対策の積極的かつ具体的な取り組み方策の推進	これまでの継続事業であります、鳥獣害対策の連携の取り組みの中で推進します。
23	々	耕作放棄地の有効活用 農地バンクへの届け出による農地活用の推進	新規事業として、農業への理解を深める取り組みの中で周知等に努めます。
24	々	黒川里山センターを自然学習の学び舎として積極的な活用。来場者用駐車場の確保。	新規事業の取り組みの中で、活用していきます。また駐車場の確保については、今後、利活用する中で、状況を見て、必要な取り組みを進めます。
25	々	東谷防災計画の策定、危機意識を向上する実践的な訓練の実施 ・連絡体制の整備、避難経路の策定、 ・役割分担の明確化 ・要支援者と支援者の確認 ・各自治会における定期的な訓練の実施、からだ で覚える実践的な訓練	提案内容に留意した上で、取り組みをすすめます。
26	々	生活基盤の整備 ・狭隘生活道路の拡幅整備	道路が狭くて、危ないことは、東谷全体の問題と考え、新規事業の内でも、大きなテーマと位置づけております。

番号	意見の分類 (ページ、項目等)	意見の内容	検討結果
27	快適な暮らしの東谷	<p>黒川まちづくりの支援事業 公共交通は地域住民の日常の暮らしの足 ①タクシー利用補助生徒の創設 ②広域運営のコミュニティバスの運営 能勢町、豊能町、猪名川町、川西北部エリアで能勢電の妙見口、山下、日生中央駅を循環するバスの運行(一庫ダム、一庫公園、ゆめほたる駅も設置)安定した利用者の確保による持続可能な公共交通の運営</p>	<p>公共交通過疎地や交通弱者が日常生活を不安なく送れるよう、多様な形の「コミュニティ交通」や「交通対策」を検討していきます。</p>
28	快適な暮らしの東谷	<p>①山下駅前から国道沿道周辺の地域核エリアに人が集まる、にぎわう、楽しむことができる施設・商店・店舗の誘致(図書館、本屋、おもちゃ屋、ゲーム、トランポリン、レストラン、カフェ、居酒屋、カラオケ等)②地元商店・店舗に還元できる地域通貨制度の創設</p>	<p>山下駅から国道173号沿道付近は、地域核として、東谷の中心エリアであり、この再活性化こそ、東谷の将来を左右する課題であると認識しており、今後とも、決意をもって取り組みを進めます。 地域通貨制度創設については、今後、研究してまいります。</p>
29	全体	<p>これ以上の少子化に歯止めをかけるため、子ども重点施策に「人・もの・金」を投資するため、行政と協調連携した、「まちづくり委員会」の運営と成果を期待する。 ""未来の東谷と川西を引継ぎ、繁栄としあわせな、まちづくりを担う子どもたちに夢と希望を""</p>	<p>貴重な意見と激励をいただきありがとうございます。</p>

番号	意見の分類 (ページ、項目等)	意見の内容	検討結果
30	全体	<p>この度、東谷まちづくり計画(素案)を作成され、住民に書面にて意見を求めています。この様な場合コミュニティの会長以下役員が各地区に出向き地区住民個々の意見を聴く場をもっていたきたい。</p> <p>なぜならば、各地区によって実様が違ふとおもいます。それと今まで意見書を各方面から提出をもとめられ提出しても、その後、何の返事も反応もないのがほとんどであったので、地区住民の生の声を聴き地区の実態を知っていただくために、ぜひ、実行をお願い致します。</p>	<p>貴重な意見をいただきありがとうございました。今回行いました、東谷まちづくり計画(素案)のパブリックコメント(住民意見公募)は、内容的には多くが東谷全体に関係することがらであること、及び計画策定期間が約半年という、大変、短期間のため、個別自治会や個別の団体との直接の意見交換は行わず、それぞれの代表等に参加いただき、11月と12月に実施した、2回のワークショップと、住民だれでもが意見を出せる。今回のパブリックコメントを実施し、地域住民の参画、意見表明をいただく場となりましたので、ご理解いただきたいと思います。</p> <p>しかし、いただきました、今回のご意見につきましては、今後の施策立案等に際して、参考にさせていただきます。</p>
31	全体	<p>東谷まちづくり構想の中にあつて、黒川地区は、山下より離れた北の端に位置していますが、美しい里山に囲まれた自然豊かな住みやすい所です。</p> <p>残念ながら近年、高齢化が進み働きざかりの若い元気な青年が少なくなり、人口減少が始まり限界集落になりつつあります。</p> <p>今後、東谷コミュニティのメンバーとして黒川がやるべき課題は、</p> <p>①黒川ダリア園を今まで通り維持管理を行い、美しい花を咲かせ多くの人に来場いただくこと。</p> <p>②黒川里山センターの完成に伴い、NPO法人(コクレオの森)と共同で、これからの新しい楽しい生活ができる里山をすることにより、東谷全体が魅力ある地域、場所となるべく貢献したい。</p>	<p>ふるさと黒川の豊かな自然への想いと、集落の現状について述べていただき、さらに、これから、地域が力を入れるべき取り組みとして、大きく二つのことがらを具体的に示していただきました。</p> <p>東谷コミュニティとしても、これらの想いやこれからの取り組みへの地域の決意を体して、黒川の活性化に向けて、施策を進めてまいります。</p>

パブリックコメントで提出のあつた意見と検討結果と対応については、以上のとおりです。
 今後、この内容に沿って、東谷まちづくり計画素案の修正を行い原案とし、5月19日開催予定の通常総会の議決を得て成案として決定する予定です。